

第107回全国高校野球選手権青森大会



【準決勝・青森北一対八学光星】初回八学光星1死一、三塁、久保謙之輔が右前適時打を打ち、先制する＝弘前はるか夢

八学光星4試合連続のコール勝ちで、2年ぶりの甲府へあと二つと迫った。攻撃では、ボール球をしっかりと見極めて四球出塁。敵失や暴投に乗じて次々と本塁を陥れたりするが、ヒットを打たずとも点を奪う、隙のない野球を披露した。佐井宗基監督は選手が最後まで集中力を切らさずに戦ってくれた。戦いを通して、いいチームになってきたという実

ハイライト

出塁、走塁隙なし 最後まで集中切らさず

感がある」と手応えをに初回、制球が定まらない相手先発をいきなり攻め立てた。二死球で好機をつかち、主砲久保謙之輔の右前打で1点を先制。さらに暴投で2点を追加すと、捕逸や守備のエラーなどで得点圏に走者を進めはタイムリーも絡めて、一挙7点のビッグインニングをつかんだ。その後、四死球や失策につけ込みながら加点。守っては、投手陣が強力打線を徹底的に安打としたほか、併殺で相手の攻撃の勢を擁護した。

光星 初回から猛攻

役者の違いを見せつける完勝劇となった。久保は「それぞれが狙い球を絞られて、むしろ相手の動きや打球のしかりと見て、練習通りの走塁ができていた」と好調の要因を語る。

唯一の1年生押田小活躍 2安打 2打点
○：八学光星で唯一1年のストロークを流すという押田。173センチでレギュラー入りした押田小虎が3打数2安打2打点を活躍。初回に2人が活躍した。自身初の大舞台へあとから自分たちのバッティングが得意なゲームの入りだっただと納得の表情を浮かべた。初回のチャンスは、単打と相手のバッテリーエラーで3点を先制後の2打と相手投手の集中意識で、ミットに集中する姿を心掛けている。



【準決勝・青森北一対八学光星】初回八学光星、押田小虎が右前打で出塁後、右翼手のエラーを誘って2人が生還し5-0とする



決勝は聖愛—光星

第107回全国高校野球選手権青森大会第8日(24日)弘前はるか夢球場で準決勝が行った。八学光星は1-1で、青森北を5回コールドで退けて決勝に進出。弘学聖愛は、昨夏甲子園4強の青森山田を1-2で下した。最終日は午前10時から、同球場で決勝が行く。(取材班)

準決勝

青森北 00100 | 1
八学光星 7202 | 11

(5回コールド)
(青) 工藤佑、佐藤、木村、神一高坂
(八) 佐藤、柴田一平澤
▷二塁打 小野(青) 山上(八)
▷暴投 工藤佑2、木村2(青)▷捕逸 高坂(青)
▷試合時間=1時間37分
(球審=小松、塁審=関、長内、宇野)

【評】八学光星が好守整に大量得点を挙げた。初回、久保の右前適時打など打者一巡の攻撃で一挙7得点。その後も相手投手の制球の乱れに乗じて得点を重ねた。投げては先発佐藤が4回1失点の好投を見せた。青森北は投手陣が崩れ、打線も散発3安打と振るわなかった。

弘学聖愛 001101000 | 3
青森山田 000000002 | 2

(弘) 芹川一成田
(青) 扇谷、下山一平澤
▷本塁打 田中稔(弘) 佐藤光(青)
▷三塁打 伊藤(青)▷二塁打 丸岡(弘)
▷暴投 下山(青)
▷試合時間=1時間59分
(球審=井上、塁審=立花、花松、梅田)

【評】弘学聖愛が接戦をものにした。三回、二つの敵失と機打で1死三塁とし、芹川の左前適時打で先制。四回1死三塁の場面では敵失絡みで追加点を挙げた。六回には田中稔の左越え本塁打でリードを広げた。先発芹川は2失点先発した。青森山田は九回に佐藤光が2点本塁打を放つ意地を見せたが及ばず。4失策の守備の乱れが響いた。